

第120回日本解剖学会総会・全国 学術集会&第92回日本生理学会大会 合同大会報告

“からだのフロンティア
～知る・深める・極める”

澤 口 朗

宮崎大学医学部解剖学講座 超微形態科学分野

2015年3月21日から23日までの3日間、第120回日本解剖学会総会・全国学術集会（会頭：河田光博・京都府立医科大学）と第92回日本生理学会大会（会長：岡村康司・大阪大学）の合同大会が“からだのフロンティア～知る・深める・極める”をテーマに神戸国際会議場・展示場にて開催されました。

正常な機能を果たす目的性をもって正常な構造を形成する“からだの神秘”を探る解剖学と生理学の合同大会は、2011年3月に開催される予定でした。しかし、東日本大震災によって当日の大会実施が見送られ、4年の月日を経た2015年の開催に向けた準備が進められ、実現された経緯がございます。

今大会の参加者は総計3,066人、内訳は解剖学会員1,091人、生理学会員1,223人、学生の参加は788人を数えました。学生参加者にはMD（= Medical Doctor）研究者育成プログラムに参加する医学部学生106人が含まれ、将来の医学研究

を担う若手が多く参加したことは、両学会にとって大きな収穫となりました。

プログラムには5名の著名な研究者によるプレナリーレクチャーの他、71の公募シンポジウム、21の企画シンポジウムの他、9つの教育講演と6つのモデル講義で構成された「合同教育プログラム」や「MD 研究者育成プログラム」が組み込まれ、3日間の会期では足りないほど充実した内容でした。各口演会場とポスター展示会場では、最新の研究成果が発表され、解剖学と生理学の異なる視点から活発な討論が展開されました。本学会と深く関わる、顕微鏡を駆使した新たな形態学的解析手法も発表され、解剖学・生理学研究に顕微鏡の応用が進むことに大きな期待を抱きました。

大会前日には一般の方々に解剖学や生理学など、人間を含む動物を総合的に理解する基礎医学・生命科学に関心を深めていただくことを目的に、「人間と芸術」と題した市民公開講座が開講されました。大会2日目には合同懇親会が催され、大勢の両学会員と学生会員が一堂に会した懇親会場は熱気に満ちあふれ、会場周辺で咲き始めたばかりの桜が開花を早めるのでは、と感じてしまうほどでした。

密接に関係する「形態」と「機能」を探究する2つの学会による合同大会が生み出した相乗効果は、単に参加者が増加したことに止まらず、研究の推進や新規共同研究の展開、若手研究者の発掘と育成など、計り知れないものがあります。さっそく次回、合同大会開催を期待する声も上がっており、顕微鏡技術も格段の進歩を遂げていると予想される次回合同大会で、数多くの顕微鏡写真が提示されている口演会場やポスター会場を想像すると、今から待ち遠しくなるばかりです。

末筆ながら本稿執筆に際し、第120回日本解剖学会総会・全国学術集会事務局代表を務められた松田賢一先生（京都府立医科大学）より、資料を提供いただきましたことに、深謝申し上げます。



図1

Akira Sawaguchi: Report on the Joint Meeting of the 120th Annual Meeting of The Japanese Association of Anatomists & the 92nd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan
〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原 5200
TEL: 0985-85-1784; FAX: 0985-85-8406
E-mail: akira_sawaguchi@med.miyazaki-u.ac.jp
2015年6月11日受付